

学習院高等科サッカー部 “蹴跡” : Phase- I ”

“大河の最初の一滴を求めて”



GHSC
SINCE 1957

2018年(平成30年)盛夏
高等科サッカー部OB会
Phase-Iプロジェクト

学習院院歌

作詞 安倍能成

作曲 信時 潔

もゆる火の火中^{ほなか}に死にて また生^あるる不死鳥のごと
破^やれさびし廢墟の上に たちあがれ新学習院

花は咲き 花はうつらふ 過ぎし世の光榮^{はえ}ふみしめて
まなかひに世界ををさめ 現実を生きてし抜かん

なげかめや昔を今と 荒波よ狂はば狂へ
黒雲よゆくてはとぎせ 我が胸は希望高鳴る

二つなく享^うけし我命 おのがじし育て鍛へて
もろともに世にぞ捧げん 常照^{とこ}らせ真理と平和

目次

はじめに	P-1
参考年表	P-2
参考人物	P-3
歴代部長一覧及び歴代 OB 会長一覧	
鈴木勇作先生の教え	P-4～5
日常生活の七訓・試合の五訓	
草創期の声（思い出）	P-6～13
初代：坂口主将「学習院高等科サッカー部 60 年 その『原始時代』の思い出」	
2 代目：岩本主務「我が青春のサッカー部」	
3 代目：日比野後期主将「いつまでもサッカーを」	
4 代目：諸橋選手「学習院高等科サッカー部の思い出」	
尚、編集中の 6 月にご逝去された 4 代目主務：間野信氏の 在りし日の御姿は【付録】の座談会をご覧ください。合掌	
特別インタビュー要約	P-14
2 代目部長：小倉先生⇄緒明 OB 会長/藤田（8 代目主将）の訪問記	
【付録】	
『2014/1/19 開催の歓談会の報告書』の紹介と補足説明	P-15
<u>（『学習院高等科サッカー部 指導者と創立期メンバーの歓談会』既刊 P-1～10 を収録）</u>	
今回、新たに発掘された、堤精二先生（当時中等科教諭）のプロフィール	P-16
初代：坂口主将・2 代目：岩本主務の「草創期の声（思い出）」と、 【付録】の 2014/1/19 開催の懇談会の記事の中に再三登場される、 当時中等科教諭の堤精二先生のその後の足跡が今回見えて参りました。 （情報提供頂きました、2 代目部長：小倉先生と 4 代目部長：鈴木先生に感謝の次第です）	



はじめに

学習院高等科サッカー部OB会は、現役支援・親睦交流の二大使命に沿って、2017 年 3 月に【創部 60 周年記念式典】&2007 年 3 月に【創部 50 周年記念式典】を、OB総会(教室)&祝賀会(食堂)&交流OB戦(校庭)の形式で、十年の節目ごとに開催してまいりました。

つまり今年 2018 年は、1957 年 4 月に創始の志に燃える諸先輩が、日本蹴球協会(東京都高体連)に登録・加盟・ユニホーム作成以降、来るべき創部 70 周年＝2027 年に向け、緒明会長の下で、“全員参加型・現役ファーストな OB 会”の構築の礎を、より強固にしようではありませんか！

実は、「1955 年 9 月に同好会が有志で立ち上がった」と語り継がれています。

部の歴史は、名簿(既刊:5 冊＝1965 年創刊号以来、節目の 1993 年鈴木先生還暦記念号・1999 年玉生先生奉職号等々)及び、50、60 周年に編纂の<“蹴跡”＝学年別主要大会・定期戦の戦績一覧表>と、<“精鋭”＝学年別部員一覧表>に集約されています。今はOB会が高等科サッカー部ご指導の先生と共同作業で、毎年基本情報を確認の上、電子DATA更新を重ねています。

この一連の流れの中で、「大河の最初の一滴を求めて」と言う、鈴木GSC最高顧問からの、根源探求のお言葉も機に、2014 年 1 月に『指導者と設立期メンバーの懇談会』が鈴木先生をお招きして、初代主将坂口・2 代目主務岩本を軸に、目白にて 12 名で開催されました。

(詳細はその時の「報告書」を、今回文末に改めて【付録】で綴じましたので併せてご覧ください)

今回、2017 年 3 月OB総会で、2007 年から就任 10 年経過の樋口:前OB会長から新たに会長を引き継いだ緒明:現OB会長が、「1955 年同好会～1957 年部昇格の草創期の段階」「1959 年国体予選 8 強・全国大会予選 4 強に初進出の離陸期の段階」「1962 年鈴木先生就任で再構築の段階」を、まず<<Phase-I>>と定義。その後、次に大きく飛躍を遂げた「1966 年高校総体青森大会東京都代表初出場＝インターハイ世代」「1968 年定期戦＝附属戦公式競技に昇格及び 1969 年関東大会本戦初出場以降の国体東京都選抜TEAMヘスキルに長けた人間性豊かな部員輩出の夢の実現期」を<<Phase-II>>。そして、「玉生先生就任から平成の現在に至る期間」を<<Phase-III>>と位置付けられました。来るべき 2027 年の創部 70 周年に向け、今後更に史実の多面的な整備を進める態勢を役員と共に共有し、構築していく構想に至りました。

今回、高齢化が世間並なスピードで押し寄せる現状も鑑み、会長判断で、<<Phase-I>>を【“蹴跡”】に付け加える方針で、此処にその時代の記憶の文言化の運びとなりました。

今回の【“蹴跡” Phase-I】に、ご協力を頂きました草創期～途上期～再構築期のOBの皆さまに、厚く御礼申し上げます。併せて鈴木先生・玉生先生・若木先生・加藤先生(OB)の現役への献身的なご指導並びに良き伝統を継承する教育方針にも、深く感謝申し上げます。

今後、この史実の文言化を目の当たりにするであろう、OBの皆さまが人生の航路で、はたまた、現役の皆さまが進路の選択で、ささやかな羅針盤の一つになれば幸いです。



参考年表

出典は第 1 号名簿記録 & ”蹴跡”抜粋

Phase- I =草創期→離陸期→再構築期		
その 1:草創期		
昭和 30 年	1955 年 9 月	同好会認可
昭和 32 年	1957 年 4 月	部昇格・ユニホーム作成 日本蹴球協会加盟
	初めての練習試合	6/23 開成高校 2-3 敗北
	初めての公式戦	8/7 都千歳ヶ丘 0-2 初陣で敗退
昭和 33 年	1958 年公式戦初勝利	
	3 月 初代部員＝主将坂口他計 5 名卒業	
	5 月都王座地区予選	城西 不戦勝 (1 不戦勝 1 分 2 敗で予選敗退)
	8 月国体予選	青山学院 3-2 公式戦初勝利 (3 回戦進出)
その 2:離陸期		
昭和 34 年	1959 年上位初進出	
	5 月都王座地区予選	3 勝 1 分予選地区首位 本戦初戦敗退
	8 月国体予選	3 回戦進出都ベスト 8
	11 月全国大会都予選	準決勝進出都ベスト 4
昭和 35 年	1960 年勝ち上がり常連校	
	4 月都王座地区予選	2 勝 1 分 1 敗地区 2 位 本戦進出
	8 月国体予選	2 回戦敗退
	11 月全国大会都予選	2 回戦敗退
昭和 36 年	1961 年新人戦快進撃	
	1 月新人戦	準々決勝進出都ベスト 8
	4 月都王座地区予選	4 勝地区首位 本戦 2 回戦進出
	8 月国体予選	2 回戦抽選負け敗退
	11 月全国大会都予選	2 回戦敗退
その 3:再構築期		
昭和 37 年	1962 年鈴木先生の学習院高等科への”奉職元年”	
	4 月都王座地区予選	3 勝 1 分地区 2 位 本戦進出
	8 月国体予選	4 回戦進出ベスト 8
	11 月東京朝鮮中高級学校と国際親善試合で交流開始	

昭和 39 年(1964)3 月、鈴木勇作先生のご指導を 3 年間継続的に受けた第一期生が卒業。

その代の卒業式で、サッカー部は【輔仁会表彰】を受賞。

更に Phase- II =インターハイ世代→附属戦公式競技昇格→関東大会・都選抜国体選手輩出。

そして Phase- III =玉生先生(第 5 代部長)ご指導の現在につながる礎の Phase- I でもある。



参考人物(部長・OB 会長)

歴代部長一覧 (出典:60 周年”精鋭”より)

1957:昭和 32 年度～昭和 35 年度	浅沼 早苗 先生 (数学)
1961:昭和 36 年度～昭和 37 年度 前期	小倉 芳彦 先生 (歴史)
1962:昭和 37 年度 後期	菊地 浩 先生 (英語)
1963:昭和 38 年度～平成 10 年度	鈴木 勇作 先生 (保健体育)
1999:平成 11 年度～現在	玉生 謙介 先生 (保健体育)

今回の根源探求に於いて、史実としての文言や記録は残っていないが、草創期の口伝として、1957 年部昇格以前の、1955 年同好会認可に集ったメンバーは、

「中等科の堤精二先生の部活指導」が「高等科サッカー部発生の源」であり、

「中等科は勿論、大学にも当時サッカー部は既に存在していた」と言う、

往時の学習院全体のサッカー文化発祥の環境がはからずも滲み出た。

(因みに、本院の大学は 1949 年同好会認可・1952 年部昇格である)

歴代OB会長一覧 (出典:口伝及び OB 総会資料より)

1958/3 卒	坂口 芳貞	1958/4～1998/10
1970/3 卒	工藤 極	1998/11～2007/2
1960/3 卒	樋口 周嘉	2007/3～2017/3
1967/3 卒	緒明 春雄	2017/3～現在





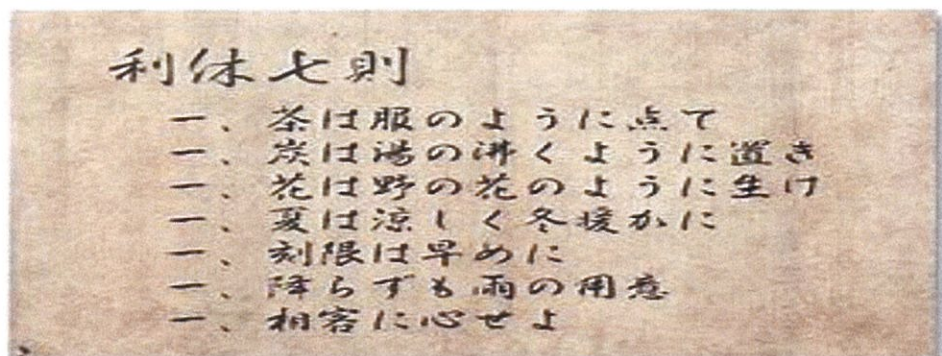
鈴木 勇作 先生の教え

★ 日常生活の七訓 ★



- 1、よく眠り 「熟睡を心がける」
- 2、よく食べ 「1口50回の咀嚼を心がける」
- 3、よく排便し 「1日1回の整腸・快便を心がける」
- 4、よく授業を受け
- 5、良い身支度をして
- 6、仲良くして
- 7、一生懸命、練習をする

「Soccerの心ってなんだろう？」を、勇作先生は【古稀】の節目に当り、千利休の「お茶の心得」に習い、学習院サッカークラブ(GSC)の皆様に、【日常生活 七訓】としてお話を為されました。



出典:bing.com/images より



★ 試合の五訓 ★



1、諦めない

Never Give up

2、パス&ゴール

Pass & Go

3、シュートを打つ

Shoot the Ball

4、取られたら追う（攻撃に転化）

Chase the Ball

5、ゴールカバーを忘れない

Goal Cover

英訳: 詠み人知らず



学習院高等科サッカー部 60 年 その『原始時代』の思い出

坂口 芳貞（昭和 33 年卒） 1958 年 3 月

昭和 30 年(1955 年)、進学して間もなく『高等科にもサッカー部を！』と、学生課長・伊藤博先生(綽名・「ガラ」)に創部の願書を出した。直接交渉にもいったが、認めてもらえない。先生の苗字を「伊東」と書き間違えて叱られたり、参加予定メンバー 11 人には、名前だけの幽霊部員が半分近くだったり、計画に無理があった事は棚に上げて、『なぜ認めてくれないんだ！』と悔しがっていた。そんな時に、数学の浅沼早苗先生が『正規の 11 人も揃わないくらいだから、はじめから部は難しい。同好会から始めてみたらどうだ』とアドバイスを下さった。早速、新たなお願いを出した。あっという間に認められた！そう、今思えば、両先生は様子を見ながら『すこし世間の風をあてて、勉強をさせてやろう』と話し合っておられたにちがいない。その状況が判らない 15 歳の頃の世間知らずが恥ずかしい！

とにもかくにも高等科サッカー同好会はスタートした。ただ人数が少なくて練習にもならず、戸山まで歩いて中等科サッカー部の練習に加わる半年だった。その中等科サッカー部も、サッカーの大好きな国語の堤精二先生(丸っこい眼鏡が可愛い綽名・「トンボ」 間もなく退職された)が、対外試合など、すべてお膳立てしてくださったのだ。

昭和 31 年、中等科から待望のサッカー部員を迎えた。当時の日記を見ると『4 月 17 日(火)晴れ、強風。今年初めてサッカー同好会の練習。2 年、板東・池田・坂口、1 年、岩本・神田・内藤(後に柳原)の 6 人、最初にしては好調である！』なにが好調なんだろう？『ヘディングは頭が痛くてやりきれなかった。3 本に 1 本は、脳天に当たった。大分頭が悪くなっただろう』暢気なもので、まさに原始時代だ！

メンバーが揃わないから、大学サッカー部のキャプテン恩田さんのご好意で、何回も練習に参加させて頂いた。非公式の練習試合には、野球部のレギュラー上田隆君・福山君などに来てもらった。そんな時も着替える場所もない状態だった。あのころ野球場のレフトの後方、浅沼先生のお宅に行く道の右側の傾斜地に、音楽など選択科目のための 2 階建ての教室が建っていた。その半地下が運動部の部室だった。その中の 1 室が使われなくなって壊れた椅子や机が天井まで詰め込まれ、コンクリの床には水が溜まっていた。それを発見した私は『せめて部室だけでも！』と、学校に申し出て許可をもらい、無謀にも一人でガラクタを運び出し始めた。『こんなションベン臭いところで…』他の運動部の連中が胡散臭そうな顔をする。それを無視しながらも『いつ終わるだろう？』と心細くなっていた。3・4 日後だったと思う。『今日こそ決着を！』と行



ってみると、今で言う『粗大ゴミ』はいつの間にかきれいに片付けられ、床の水溜まりもスッカリ汲み出されていた！最初の高等科サッカー部部室の誕生だ！実は、これも浅沼先生が人知れず用務員さんに手を回してして下さったに違いない。そんな隠れたご好意にも気が付かず、キチンとお礼を言った覚えもない！

浅沼先生は、東京高等師範学校(前:東京教育大:現:筑波大)のご出身で、学習院に来られる前、(神奈川県立)湘南高校がサッカー全国大会に出場していた頃の顧問をしておられた。教科目の数学では微分&積分の初歩を教えて頂いた。私は昔から数学が苦手でいつも赤点だったのだが、先生の微積分の初歩の授業が抜群に面白く、板書された棒グラフが曲線に変わって行ったのを思い出す。統計・時間経過など世界の見方少し変わった！それと夏休み。今上天皇が高等科時代に過ごされた清明寮での合宿！冷房などないから、開け放して寝ると蚊の大群に悩まされる。朝は勉強・補習の時間。浅沼先生が御自ら個人授業をされ、数学以外は、出来の悪い私まで代用教員(?)を仰せつかった。その後の練習はキツかったけれど実に懐かしい思い出だ！

当然のことながら、先生はサッカーに非常に詳しく、とても緻密だった。戦前、日本が強豪スウェーデンと2対2で引き分けて国際的に話題になった時の話をされた。『ボールを持ったら、バスケットのようにゴール前まできちんとキープし、そこから早い三角パスを組み合わせてゴールを狙う！点が入った時なんかフォワードも相手バックスも、みんな身体を投げ出して倒れこんでるんだ！』我武者らなキック&ラッシュしか出来ない私に、緻密なショートパス戦法を理解させようとなさったのだろう。試合中よく岩本尚義君から『ただ蹴らないでフォワードに繋いでくださいよ。もったいない！』と言われ、高等科の先輩・楠瀬さんには、『自分だけ怒鳴ってないで、もっとボールを繋げ！』と怒鳴られた。実は先生の助言を活かすどころではなかった。ファウルすれすれの体当たりの防御と、奪ったらすぐ大きくクリアするしか能がなかったのだ。

昭和32年。高等科3年、中等科からの即戦力を迎えて、やっとメンバーも揃った。日本蹴球協会にも登録に行き、白地にオレンジとグレーの少々女性的な印象のユニホームも作った。ついに対外試合もできるようになったのだ。しかし勝利はゼロ。6月24日、開成とのオープン戦は初の引き分け(!)寸前に、コーナーキックから私がヘディングでオウンゴール2-3！オープン戦での附属戦も「やってあげるよ」の雰囲気の中なかで1-6。国体予選は一回戦敗退。試合での良い思い出はほとんどない。唯一、10月末、先生たちに『受験の準備しなくていいのか?』と言われる中でやった、その年最後の暁星とのオープン戦。2-2で引き分けた！11月3日文化祭に向けて活動していた演劇部の太田省吾・菅孝行や、京都大学を共に受験する約束をしていた細川護熙に報告すると、他人事とは思えないほど喜んでくれた！やたら嬉しかった！勝ったんでもないのに！無我夢中でやってきたことが、なぜか無意味ではなかったような気が

して・・・。

演劇人を続けて55年。78歳になった今、振りかえってみると、いかに多くのものをサッカーから得たか！驚く程だ！特に素晴らしいのはサッカーに繋がるその人脈。人生そのものを教えて下さった先生方、特に高等科サッカー部60年を築き上げて下さった鈴木勇作先生。現役の運動部として参加したのは、学習院中・高と大学1年、北大1年半を通算しても、たった7年間だけ。途中ドロップアウトしてしまった私、その後も分け隔てなく仲間として付き合い続けて下さったサッカー部の友人・先輩・後輩。皆様にどんなに感謝しても、し足りない。

『芝居はサッカーによく似てる』と言われる。監督の指示のもと、メンバー全員がゲームの瞬間瞬間を共有する。全体をイメージしながら、個人個人がポジションの務めを果たす。苦しみ且つ楽しみながら、全力でゴール/勝利を目指す。そのための厳しい全体トレーニングと個々の努力。監督を『演出家』に、メンバーを『俳優』に、ゲームを『劇』に、ポジションを『配役』に、ゴール/勝利を『喝采』と置き換えれば、サッカーはそのまま演劇だ。現役時代にマトモに理解すら出来なかったサッカーの素晴らしさが、演劇を続けているうちに少しずつ分かるようになってきたのだ。本当、皮肉なものです。理屈はともかく、皆さんに心から感謝するとともに、立派な伝統校となった学習院高等科サッカー部が益々活躍することを祈ります。

<付録>

原始時代の苦勞と言え、肝心なボール。決定的に数がたりなかった。球拾いが大仕事。すり減るまで使うから部分的に変形して真っ直ぐ飛ばない『タヌキ』ボール！

造りも今とちがって手入れは大変だった。皮のボールの横っ腹に10センチ程の切り込みがあり、そこから中のゴムチューブの吹き込み口を引っ張り出して真鍮製小型手押しポンプで空気を入れる。押してみても丁度良く固くなったら、吹き込み口を輪ゴムで留めて半分に折って牛皮の内側に押し込む。出来たー！と思っはいけない。5ミリ幅くらいの皮の紐(糸？)をボールの開腹部の両側に開いた小穴に通して縫い合わせるのだ。

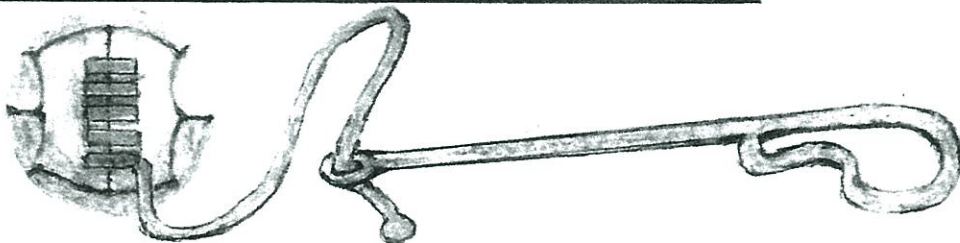
銭形平次の十手の先端に穴をあけたような『ニードル』と称する巨大な針を使って！不注意でゴムチューブを突き刺して泣いた奴が何人か。まっさらな牛皮ボールが蹴れることはほとんどなかった。

当時のサッカーボール

皮の紐

ニードル

(画：岩本)





我が青春のサッカー部

岩本 尚義（昭和 34 年卒）1959 年 3 月

学習院高等科サッカー部創設にあたっては、浅沼早苗高等科科长に全面的な御支援を頂きました。初代サッカー部部長として文武両道・質実剛健の厳しい面もありましたが、部員の個性を引き出し自由奔放なスケールの大きいサッカーを指導頂きました。そして、創部に参加した私達にとって、初代坂口主将は部の重鎮であると共に、模範的プレーヤーとして、又、部の創設企画から誕生迄のマネジメントにも孤軍奮闘されたスーパーマンでした。

設立当時の部員名簿を見ても昭和 33 年、34 年卒は 10 人の侍、サッカーでは言うまでもなくメンバー不足、坂口主将は試合の度に他運動部から選手を拝借、試合に臨みました。34 年卒の柳原（旧姓・内藤）主将も部員確保が第一義、彼の熱意が 35 年卒の樋口、日比野両主将を始め、市川、徳川、多田、塚田諸兄の入部に繋がり、サッカー部は存続できました。その後、36 年卒には、大黒柱諸橋、白石、高瀬、間野、山田の諸兄の入部で将来の強力チームの形成基礎が築かれ、草創期から次世代へと継続されました。

坂口主将を支えた我らが 34 年卒の 5 人衆。当時のサッカーは、攻撃と守備が明確に役割分担された V フォーメーション（後述・注 1）が主流であり、柳原のウイングからの強烈なセンターリングを、インナーのテクニシャン神田と岩本で、シュート、得点へ。守りは、フルバック今村（祖父：次吉氏は初代の大日本蹴球協会会長。平成 17 年第 1 回日本サッカー協会殿堂入り）の堅守と、守護神、松平のゴールセーブ。ああ懐かしや戦績は勝ったり負けたり、附属戦は当時、附属が全国レベルで、力の差は歴然。オープン種目として参加致しました。

私とサッカーとの関わりは何といっても浅沼先生の指導にあります。テクニックの無い私に与えられた役目は、まずボールを強く、遠くへ蹴り、後は走れ、走れでした。お陰で走ることに關しては、高等科のマラソン大会では常に上位入賞。大学でも 10 マイルロードレースに昭和 36・37 年連続優勝と全てサッカーのお陰です。

サッカーは、個人（Own）から集団（Team）、即ち、個人が鍛えたパワーを如何にチームへ提供し、チームプレー、チームワークに貢献できるかに掛かっています。これぞ、Association Football（後述・注 2）、サッカーの原点ではないでしょうか。

私はサッカーを通じ、公私共に多くを学び、多くの友人を得たことは財産でもあり誇りです。特に、浅沼先生、坂口先輩を始め指導者、サッカー仲間にも恵まれました。皆様に感謝すると共に、今日迄サッカーを継続できて良かったというのが実感です。

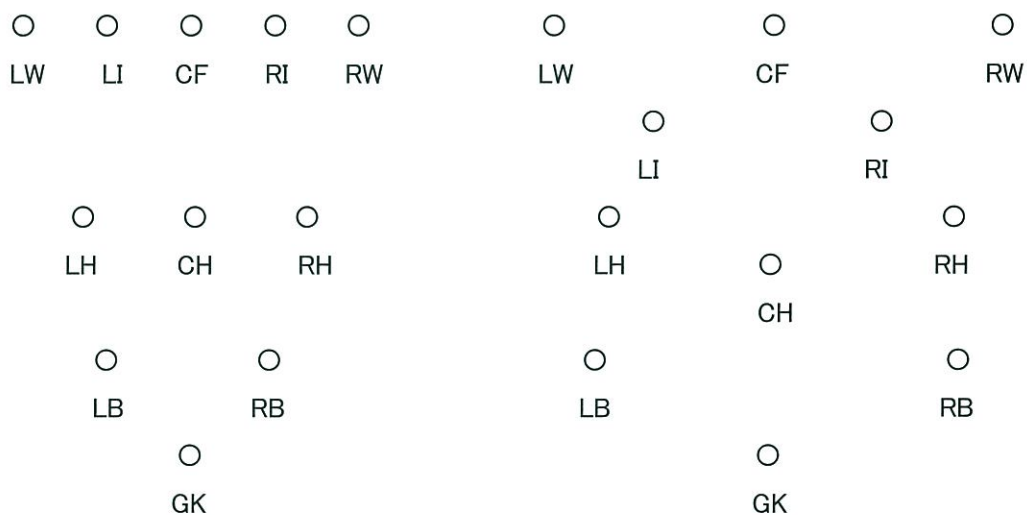


どうか現役の皆様も鈴木勇作最高顧問並び玉生部長に指導を仰ぎ、サッカーへの情熱を失うことなく、更なる躍進と蹴歴の継承者としての活躍を祈念致します。

最後になりますが、今回、学習院高等科サッカー部部誌の発刊にあたっては、鈴木勇作先生から有意義なアドバイスを頂きました。

平成 25 年秋グラウンドで現役の皆さんに対し、サッカー部は設立時の先輩のお陰で存続しており、OB 並び現役は、此の歴史を後世に引き継ぐ義務があると話されました。確かに創立時のメンバーも既に 70 代、そろそろ語り部ではなく、文書に残し後世へと考え、平成 26 年 1 月鈴木先生に列席を賜わり、坂口初代主将を始め 70 代の 10 名が出席、我らの青春「サッカー部草創期」を語りました。当日オブザーバーとして出席の藤田喬君に纏めて頂いた報告書を <Phase- I > 付録として添付させて頂きます。

注 1 V フォーメーション (2-3-5) その後、W M フォーメーション (3-2-5) に進化した。



上から見ると GK を含め V 字に見えることから呼ばれました。

1866 年オフサイドルールが見直され、攻撃型の V フォーメーション (2-3-5) が主流となり、その後、更なるオフサイドルールの改定により WM フォーメーション (3-2-5) に、そして 4-2-4 を初め、オールラウンドでスピード感豊かなフォーメーションに変転して行きます。

注 2 Association Football

近代サッカーは、19 世紀英国のパブリックスクールで始まりましたが、当時、学校毎にルールが異なり、関係者が協会を作ってルールの統一化を図ったことから、「アソシエーション (協会式) フットボール」になり、英語の Association の「SOC」から Soccer が派生しました。



いつまでもサッカーを

日比野 勲（昭和 35 年卒） 1960 年 3 月

早いもので、高等科を卒業して、もう 60 年経ちました。

我々の時の高等科サッカー部は、出来たばかりで、試合に勝つというより、先ずボール蹴りの技術や、チームプレーを磨くことが先決でした。

湘南高校から浅沼先生が転勤されて来られ、基本から色々教えて頂きました。部員が 15 名いるか居ないかで、勝負より試合が成立するかしらないかが先決問題でした。

試合の前日の練習時、下級生のプレーがひどかったのでグラウンドで“バカヤロウ”と怒鳴りつけましたが、明日の試合を考え練習終了後に“ゴメンよ。明日は絶対来てよ”と言ったこともありました。現在は部員も沢山居て、選手選考も大変だと思います。

さて、現在小生は、NPO 法人 日本サッカーOB 会（旧称 SOI）と言うクラブの幹事をしています。このクラブは参加資格が 60 才以上で、最高年齢の方は 88 才です。メンバーは、約 300 名居ります。週に 2～3 回 30 名から 40 名が集まり、約 2 時間、15 分ハーフの試合を交代でやって、楽しんでます。

メンバーには、嘗ての全日本代表選手や、大学では 1～4 部の人、高校時代にやっていた人、又、我々の練習会をグラウンドの脇から見ていて、楽しそうだから是非入れてくださいと入ってきたサッカー未経験者と、色々の方が居ます。

クラブのモットーは、練習試合はやりますが、勝が目的ではなくボールを楽しく蹴ることが一番大事としています。高齢者として怪我をしたらサッカー人生も終わるので、ボディーチャージやスライディングなどのラフプレーは一切禁止です。又、試合を楽しくやるため否定的に怒鳴るのではなく、アドバイスの言うなど、言葉のラフプレーも禁止です。参加者も最初は物足りないという人もいますが、段々と楽しさに慣れて来て、入会して良かったという人が殆どです。

高等科卒業後は大学でプレーをし、又、卒業後に社会人としてプレーする人も居ると思いますが、その勝負に勝てるように技術を磨き、体力をつけることが、今は大事です。

でも、将来も是非楽しいサッカーを続けて欲しいと思います。



学習院高等科サッカー部の思い出

諸橋 泰（昭和 36 年卒） 1961 年 3 月

私が学習院高等科に入学したのは昭和 33 年 4 月のことです。それから 60 年の歳月が経過しております。従って記憶が曖昧な部分が多々あり、完全なものではないかもしれませんが、ご容赦下さい。

昭和 30 年代の初めは、まだまだ野球全盛の時代でした。当時、日本のサッカー人口は少なく、技術的にも世界と比して低レベルであったと思います。日本に Jリーグができ、ヨーロッパのサッカーが毎日のようにテレビで放映され、日本人がヨーロッパの有名クラブチームで活躍している現在とは隔世の感があります。

私がサッカーを始めた切っ掛けは、高師附属のサッカー選手だった叔父（諸橋晋六＝平成 26 年日本サッカー協会殿堂入り）の影響が大きかったと思います。

中等科ではサッカー部に所属して、附属戦では高等科の初代サッカー部長を勤めておられた浅沼先生にご指導いただいた記憶があります。

高等科に入学と同時に当然の様にサッカー部に入部しました。当時のキャプテンは内藤さん（後の柳原さん）、三年生は岩本さん、神田さんがおられました。二年生は樋口さん、日比野さん、市川さん。一年生は高瀬、間野、山田等々のメンバーで部員数はサッカーできる 11 人を数人上回る程度の人数であったと思います。

当時サッカー部の目的は、附属戦に勝利する事と、全国高校サッカー選手権の東京予選で良い成績を収める事が主たるものでした。

高等科の校舎は目白通りに沿って建てられておりグラウンドはその奥にありました。夏休みには、清明寮に数日合宿して午前、午後と足がつるまで猛練習をしました。体はヘトヘトに疲れはしましたが、大変楽しく、大いに満足した記憶があります。練習内容は昔ながらの蹴って走るといのが主となり、今のような高等な戦法はありませんでした。それでも基礎体力がつき、根性的なものが身に付いたことは疑いの余地はありません。

昭和 34 年度の全国高校サッカー選手権の東京予選では、その年度の東京代表校となった城北高校に準決勝で敗れはしたものの、初めてのベスト 4 入りを果たしました。因みにこの大会の結果と出場選手は以下の通りです。

1 回戦	学習院 7-1 富士高校	前半 (4-0) 後半 (3-1)
2 回戦	学習院 2-1 帝京商業	前半 (0-0) 後半 (2-1)
3 回戦	学習院 3-2 北野高校	前半 (2-2) 後半 (1-0)



準々決勝 学習院 1-0 石神井高校 前半(1-0)後半(0-0)
準決勝 学習院 0-1 城北高校 前半(0-0)後半(0-1)

＜注＞創部以来、初の東京都 BEST4 に進出した伝説の試合。

因みに東京都決勝は、海城高校に 3 対 1 で勝利の附属が、
城北高校に敗れ、城北高校が優勝し東京都代表になる。

GK 渡辺(1) FB 小山(1) 徳川(3) HB 日比野(3) 間野(2) 市川(3)
FW 高瀬(2) 山田(2) 福田(1) 諸橋(2) 内藤(1) ()は学年

昭和 30 年代初めの学習院高等科サッカー部揺籃期に、その発展に尽力された方々は多数おられますが、浅沼先生、坂口芳貞さん、岩本尚義さんが強く印象に残っています。

古いアルバムを見ながら遠い遥かな昔の高等科サッカー部時代に思いを馳せながら筆をとっていると懐かしさで一杯になりました。

こんな思いで話でも、現役の方々の一助になれば幸いです。
学習院高等科サッカー部の益々の活躍を心より願っております。



高等科草創期のユニホーム(上)や当時の鉢巻姿(下)にもご注目下さい



(当時の風習を映す中等科附属戦の貴重な一枚)

【写真提供: 諸橋 泰 氏】



訪問記

第2代部長 小倉先生⇄緒明 OB 会長・藤田編集員

先生は古代中国文化研究家。1927年生まれ。父は、朝鮮語・韓国語学者の小倉進平。東京大学文学部卒業。同大学東洋文化研究所助手を経て、1953年より学習院勤務。学習院大学文学部教授、学習院女子短大学長、学習院大学学長を歴任して、2001年退職。現在同大学名誉教授。

<出典> d.hatena.ne.jp/keyword

1957年に初代サッカー部長に浅沼早苗先生(当時教務課長)就任。その後、戸澤富寿高等科長の後任に浅沼先生が就かれご多忙の中で、「私が旧制武蔵高校サッカー部 FW の経歴も活かし、お手伝いをした」「1961年～1962年前期まで高等科2代目サッカー部長を拝命」

<2018/3/9 文京区西方町ご自宅で取材の要約>

局面区分	Phase- I の chaos な時代				注: 戸山校舎とは、現在の学習院女子大学と女子高等科・中等科のある戸山町の男子中等科校舎
時代区分	大河の最初の一滴				
西暦	1953 年	1954 年	1955 年	同好会	
和暦	昭和 28 年	昭和 29 年	昭和 30 年		
出来事	◆1953 年（昭和 28 年）4 月に、 小倉芳彦先生が中・高等科に奉職。 （中等科＝戸山校舎/高等科＝目白校舎） （1953/4～1955/3 は生徒課参与） ◆此のころ、中等科＝戸山校舎に、 <u>堤精二先生（国語）</u>が在籍され、 中等科にサッカーを広められた。 その後【御茶ノ水女子大学】（新制大学）の、 国文学分野の教授ををつとめ叙勲された。				1949 年（昭和 24）4 月に男子中等科は都下小金井から戸山町に移転 1957 年（昭和 32）8 月男子中等科は目白に移転 1999 年（平成 11）4 月男子中・高等科校舎が現在地に落成（校舎とグラウンドは南北に入れ替え配置） 2004 年（平成 16）8 月男子中・高等科グラウンドの人工芝改修工事完成



.....

この頁以降に、2014 年 1 月既催の『指導者と設立期のメンバーの懇親会』
報告書(小冊子)を付録:P-1～P-10として、改めて参考展開と致します。

.....

尚、今回の Phase- I の編纂作業を通じ、次のようなご指摘も数点
頂きました。ここに併せて、「諸説あり」として記録します。

※P-4 文末の「浅沼先生は、早川さんや長沼健さん・・・」の部分

は、「浅沼先生は、昭和 23 年第 3 回国民体育大会で準優勝し
した湘南高校の小林さん(旧姓:早川さん弟)や、優勝した広島高
師附属の長沼健さん・・・」と表記が、より明確になります。

※P-5 中段の「ピラミッドのグラウンド・・・」の部分は、

「ピラミッド校舎が建つ前の西グラウンド・・・」と表記が、
より明確になります。

＜注＞そのピラミッド校舎は 1960/8 竣工～2008/3 解体で、
現在は跡地に、2010/3 竣工の中央教育棟がたたずむ。

出典:Wikipedia.org より抜粋

2014/1/19 (日) 学習院高等科サッカー部

指導者と設立期メンバーの歓談会 報告書

☆ visiting old, learn new ☆



手前カラ※大学名は出身校※敬称略後同様※

岩本尚義 (1959/3 卒) 学習院大
 諸橋泰 (1961/3 卒) 慶応義塾大
 多田仁史 (1960/3 卒) 学習院大
 樋口周嘉 (1960/3 卒) 東京大
 神田元次郎 (1959/3 卒) 学習院大
 間野信 (1961/3 卒) 学習院大

手前カラ※大学名は出身校※敬称略後同様※

福田壽一 (1962/3 卒) 東京歯科大
 内藤政忠 (1962/3 卒) 学習院大
 鈴木勇作 先生 GSC 最高顧問
 第4代: 前部長
 坂口芳貞 (1958/3 卒) 北海道大
 日比野勲 (1960/3 卒) 学習院大

欠席: 玉生謙介 先生 第5代: 現部長

池田清英 (1958/3 卒) 中央大・関口信義 ((1962/3 卒) 学習院大

<豊島区目白【揚子江】にて>

<司会進行=幹事: 岩本尚義 記録=藤田喬 (1965/3 卒) 学習院大>

【プログラム】

17:00~17:05 はじめに「参集お礼と開催趣旨説明」幹事: 岩本尚義
 17:05~17:25 「設立期のふりかえり」初代主将: 坂口芳貞
 17:25~17:45 「学習院とのかかわり」GSC最高顧問: 鈴木勇作先生
 17:45~19:15 ☆歓談 会食☆ & ☆当時を偲び 一人 一言 ☆
 19:15~19:30 おひらき「まとめとお礼」幹事: 岩本尚義

【はじめに】幹事: 岩本

皆さま、今晚は。

昨年グラウンドで鈴木勇作先生から、高等科サッカー部員を紹介頂いた際、「此の先輩たちが

サッカー部設立を担い、今諸君が活動できるのは先達のお蔭」^{せんだつ}と有難いお言葉を頂きました。

私も設立期のメンバーの一員ではありましたが、設立に功績があったのは坂口先輩を置いて他にありません。プレーヤーのみならずマネジメントまですべてに拘かかわられました。

そして忘れてはならない恩師、設立に全面支援を頂いた浅沼早苗元高等科科长、初代サッカー部長がおられました。

鈴木先生からは、「設立ヒストリーを後世に引き継ぐべき」とのお話を頂きました。
早速、坂口先輩、樋口、日比野に相談いたし、賛同を得ましたので本日の会になりました。
本日のメンバーは設立期にボールを蹴りあったメンバーに絞り、オブザーバーとして藤田に加わってもらいました。

まず、坂口先輩にお話を頂き、次に、高等科サッカー部の重鎮として、育成に半世紀以上も携たずさわれ、傘寿さんじゅを迎えても矍鑠かくしゃくとしてグラウンドに立たれ、ご指導を賜わっております鈴木先生から、お言葉を頂きます。

それでは、坂口先輩、宜しくお願い致します。



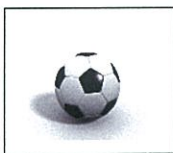
堤先生



【ふりかえり】1958/3 卒 初代主将：坂口

それこそ大昔で、「覚えていないくらいの、もう 50 数年」ですが・・・
中等科時代サッカー部は無かったが、「何かやりたい」という時に、昼休み、どこから持ち出したか、一つのボールをサッカーが大好きな堤精二先生と蹴りあっているうちに、「中等科にサッカー部を作ろうじゃないか」と盛り上がり、堤先生が【届出】や試合の【同行】等、「全てをやって下さった」記憶があり、此れが後の高等科サッカー部設立の原点と言っても過言ではありません。

これから以降は、“坂口ふりかえり”に、各位が適宜追憶や質問を交えて歓談形式で進行された



高等科に入ったらサッカー部がないので「サッカー部を創りたい」と。
学生課長の伊藤博先生（通称ガラ）にご相談に行った。届けを出す時、
先生の名字を軽率にも伊東先生と書いてしまったこともあって、なかなか「うん」と言っただけなかった。

そこで浅沼先生に顧問に成っていただいて、「同好会ということで出発しよう」という事になった。しかし、この名簿に載っている池田・飯田・坂東など名前を連ねても、メンバーは全然足りなかった。そこで、ほとんど練習に参加したこと事もない、村井・福山など幽霊会員を駆り集めて、何とか同行会の形を取ることが出来た。この中で比較的頑張ってくれたのが野球部の連中。特に朝霞に住んでいた上田は優秀な三塁手だったが、サッカーでもなかなかの健脚ぶりを見せてくれた。そんなわけで 1 年生の時には、ほとんど正式な試合が出来ず、岩本、内藤、神田、松平などが入って来て何とか恰好がつくようになった。

「初めてやった試合は何時だったか？」 について

3年生でやっと初めて公式戦だった。その前にも練習試合等はしていたと思う。
オープン戦を開成高校とした。＜「負けて悔しかった」の声＞

＜＜＜平成 11 年 5 月発行・OB 会名簿の P 29 付録より当時の対戦成績を抜粋＞＞＞

1957 年 4 月～1958 年 3 月（昭和 32 年度）

開成	（オープン：於 開成）	6 月 23 日	G 2-3K	（1-1）（1-2）
附属戦	（オープン：於 本院）	6 月	G 1-6F	（0-4）（1-2）
国体予選	千歳が丘（於 大泉）	8 月 7 日	G 0-2C	（0-1）（0-1）
暁星	（オープン：於 本院）	10 月	G 2-2G Y	（1-0）（1-2）

附属戦は定期戦の正式な対象でなく（当時、附属は強く、やる前から定期戦の勝ち点を取られるからと認められず）、無理やり組んだが、「やってやるよ！みたいな感じ」で見事に負けた。その頃の練習試合は開成高。あと暁星高？とも 3 年の時に練習試合をした様に思うが・・・野球部やバスケット部から借りて練習試合をした記憶も・・・が、当時の結果や記録は判らない。

「その頃の練習場所は？」について

当初は、ピラミッド校舎建設前の【西グラウンド】で行い、大学は西半面・高等科は東半面を使用した。大学の練習台であったが、良く練習試合にチャレンジ。こちらも強くなり互角の勝負をした。その後、高等科校舎のある処に移った。

＜記録注：2004/8 に今の人工芝に改修。その時に校舎とグラウンドの位置が入れ替わった＞

＜記録注：最終 10 頁の、昭和 30 年当時の高等科新校舎移設前の図面をご参照ください＞

「学習院大学サッカー部とのかかわり？」について

【豊崎光衛元学習院大学教授・初代サッカー部長を偲んで】追悼文集の岩本寄稿より抜粋

それによると、「豊崎サッカー部長が目白から離れた戸山の中等科グラウンドに大学の現役、当時の恩田主将他諸兄を派遣し、中高等科生へのサッカー指導にあたらせ、底辺基盤の確立に、ご尽力頂きました。

昭和 33 年 4 月には、指導を受けた高等科サッカー部第 1 期生・坂口先輩が大学に入学、サッカー部入部を果たしました」

「附属戦の場所の記憶は？」について

学習院開催年は、当初は大学の【西グラウンド】。その後、高等科の【グラウンド】に移った。

「当時のユニホーム」について

坂口先輩が同期の松下にデザインを依頼し、シャツはホワイトで左胸に G、パンツはグレー、ストッキングはオレンジ。その後、昭和 33 年に実家が衣料品関連会社を営んでいる山田に頼み、当時アジア大会で台湾が着用した、縦の白紺を基調としたユニホームを安く仕上げてもらった。

但し色落ちの悩みがあった。

「日本蹴球協会」への届け出について

1957年に当時は御茶ノ水の日立本社の処にあった、岸記念体育館の日本蹴球協会に届けに行った。現在の原宿にある岸記念体育館の前身に届け出て、【同好会】から正式に【部】に昇格。

「設立後3年間の主将や強い思い出話」について

初代主将：坂口。2代目：内藤（兄）＝柳原。3代目：受験の為、前期：樋口・後期：日比野。4代目：高瀬。5代目：内藤（弟）と主将は続く。

公式戦（1959年都国体予選）で4連勝し、5試合目で私城北に0-1で敗れ都BEST4進出。

<「俺たち3年の最後の試合。樋口は受験の為、後ろの方で違う服を着ていた」＝日比野談>

<「モロ＝諸橋泰（兄）達が強かった」の声>

<「3年生に成って何処か受験すると聞いているのに何している」と浅沼先生に問われた」＝樋口談>

「坂口自身が当時の逸話」の回顧

高等科卒→浪人の代わりに、学習院大学の独文科に1年在学（サッカー部）→北大進学（サッカー部）。学習院大学にはサッカー部があり、「入学即春合宿参加の時代」でした。

「坂口の北大時代の全国大学選手権で東京遠征時のエピソード」について

鈴木先生が覚えていらっしゃるかどうかですが・・・

私が北大に行って、その年の全国大学選手権の3回戦で東京教育大学と対戦し、延長戦の末、2対3で惜敗した。

その時に、東京教育大に附属戦で戦った奴が出ていた。「オッ」とか言って・・・

<「村岡さん・長屋さんが、附属の出身でした」＝鈴木先生談>

<モロ＝諸橋泰（兄）：次男）の兄貴（長男）も附属でしたね」＝岩本談>

それではここで鈴木先生にご登場願います。

【学習院とのかかわり】GSC最高顧問 第4代前部長 鈴木勇作先生

浅沼先生は東京高等師範（のちの東京教育大/筑波大）ご出身で、私が東京教育大でサッカー部の時に部長でした阿部三亥教授と東京高等師範で同期だった。浅沼先生はサッカーとしては、高等師範からの先輩・後輩にあたる。そのご縁で「学習院へ行くか行かんか」と成った。

浅沼先生は、早川さんや長沼健さん（関学大・中央大/元全日本代表監督）が居た広島高師附属と競われた湘南高校（神奈川）が全国大会に出場した時の顧問を歴任後、学習院に来られた。サッカーには興味が強くある方でした。

<「我々の試合が終わって着替えていると他所の学校のコーチをしていたりして・・・」の声>

＜「当時はコーチ制度など無く、そういう意味でも我々は浅沼先生で恵まれていた」＝岩本談＞
＜「高師では教育の一貫として、スポーツを重要視していたので、卒業後、全国各地の高校・中学・師範等へ赴任したら、其処で競技の普及発展に努力する使命観・理念を持っていた」

「だから自分の学校も指導するだろうし、他所も指導するだろう」

「浅沼先生も私も指導は本能的にやる」＝鈴木先生談＞

現在は日本サッカー殿堂入り（2013年第10回）した高田静夫（都立石神井高/東京教育大/読売クラブ/国際審判員）兄弟等を指導。その後、東武練馬にある北町中（練馬区立）に1年間移った。

この頃に、阿部先生から「鈴木、学習院へ行かんか」のお声。

しかし、北町中が先約だったので、北町中に勤務していたら、たった1年で再びお声が掛った。先輩でもある阿部先生にいわれれば・・・そうしたら浅沼先生が待っていた。（昭和37年4月）

学習院との初めての縁は、東京教育大の時に関東大学サッカー連盟3部リーグ戦の試合で審判に行った時でした。学生時代（2年生位?）に4年生先輩（主審）に連れられピラミッドのグラウンドで旗振り（副審）。初めて学習院の敷地に足を踏み入れて以来、その後はいっさい足を踏み入れてはいなかった。

私の在学した東京教育大は、選手も審判も大会運営も全部やる姿勢の伝統。私は卒業後、早慶の国立での定期戦・OB戦のレフリーもしたことがある。

＜「直接鈴木先生にご指導を受けた最初の代はここにありますか？」＝岩本談＞

ここにはいない。諸橋恒夫（弟が）第6代主将の時からで、その頃は、併せて大学の合宿等も携^{たずさ}わった。

＜「大学の岐阜合宿ご指導。幡ヶ谷の東教大グラウンドで練習試合をさせて頂いた」＝岩本談＞

宴も次第に、たけなわに向い、各種回顧談が随所で盛り上がり始めた。

＜記録注：ここで日比野所蔵の当時の貴重な集合写真が回覧された＞



＜「武蔵野グリーンパークのグラウンド（現：武蔵野市営総合運動場）は、牧草と石炭殻で転ぶとビフテキで大変な処でした」＝諸橋談＞ 当時は大学の1部リーグ戦や実業団の試合も使用。

＜「そういう最初の頃の部の有り様を聴きたかったし、記録が残ればな～」＝鈴木先生談＞

<「利根川の最初の一滴ひとしずくは何処から？高等科サッカー部の最初の一滴ひとしずくの歴史を知りたい」>
 <「私は毎日グラウンドに出て、口も出した！」＝同上>

1957/4 『部』に昇格・日本蹴球協会登録加盟 (1955/9『同好会』設立認可)

2007/3 創部 50 周年記念祝賀会開催 (OB 総会併催)

初代部長 浅沼 早苗 (数学) <1957/4～1961/3> 高等科科长・のち学習院理事

2 代部長 小倉 芳彦 (歴史) <1961/4～1962/前期> のち学習院大学学長

3 代部長 菊池 浩 (英語) <1962/後期～1963/3>

4 代部長 鈴木 勇作 (保健体育) <1963/4～1999/3> 高等科生徒科長

(財) 日本サッカー協会理事・参与 東京都サッカー協会理事 日本高校選抜選手団団長・監督
 全国高体連サッカー部長 東京都高体連サッカー専門部委員長を歴任

5 代部長 玉生 謙介 (保健体育) <1999/4～2014 現在>

※2010/9/19 鈴木先生誕生日の『喜寿式典』で撮影※



日比野・岩本・鈴木先生・楠瀬

<記録注：楠瀬は高等科にサッカー部ない時代に学習院大学で蹴り初め (大学 1959/3 卒) >

ここで、青森インターハイ出場の GK 伊達 (1 年)・CF 黒木 (2 年) がご挨拶に参上

鈴木先生、貴重なお話を有難うございました。

【当時を偲しのび、一人 一言】

1962/3 卒 (第 2 代小倉部長～第 3 代菊池部長時代) 福田壽一 内藤政忠 (主将)

福田 初/中/高等科が懐かしい。小倉部長 (世界史) の時代に、「浅沼先生からご指導」頂いた。

「坂口先輩も練習に来てくれた」岩本先輩も教えて下さり、試合に女性づれで来られ、「憧れた」。

歯科医は「昨年 3 月に年齢的にも悟り引退」。<「俺も歯をお世話になった」諸先輩の声>

内藤 兄貴＝柳原 1959/3 卒が 6 年前に死亡した。初～大で上下全て存じ上げるが、{多田先輩のみ存じ上げず}。坂口先輩には高等科 1 年の時に兄貴たち交え教えてもらったのが懐かしい。

私のポジションは昔の WM 陣形のウイング。2 年生頃にミスキックし、諸橋先輩が耳をつんざく「バカモン！」と。鈴木先生には、近代サッカーのフェイント・パスワークの技術を教わった。

樋口/日比野先輩のシニアには感服！ {でも見習おうとは思わない}

<数々の{軽妙洒脱なジョーク}連発に一同笑いの渦>

<記録注：現在のシュート板再興の時に、柳原家から桜蹴会を通じ故人のご寄附を頂戴した>



福田 壽一



内藤 政忠

1961/3 卒 （第2代小倉部長時代）間野信 諸橋泰

間野 中等科の院内大会（サッカー/バレー/バスケット/ソフト）では、「バレーを選択しそのままバレー部に入部」。ところが、高等科進学時にバレーに6人制導入され、身長が低くネットが高く無理なので諦めた。親父がやっていたのと諸橋/山田/高瀬の縁でサッカー部に入部。当時の浅沼先生は毎年選手の勤務評定を数字でされた。伸びた選手は点数があがった。2年生で6点になり「今年1年間に良く伸びた」のお言葉に「もう少し頑張ろう」と。2年生の国体都BEST 8も海城に破れ残念だが、今も心に残る良い思い出。大学は理科系でしたがサッカー部は続けた。最近、本田のACミラン・WC開催等、サッカー界の話題が豊富で快哉をさげんでおります。「学習院高等科のサッカーもどこかで頑張ってもらうべく応援したい！」です。

諸橋 中/高のサッカーの記憶は色々ある。まず、「坂口さんが中/高のコーチ」と誰かから聞いて、「学習院のサッカー部の礎^{いしずえ}の人かな」と凄く尊敬。そしたら可愛がられて有栖川公園のご自宅にご招待頂いた楽しい記憶。次に高等科で夏練の帰りに、岩本さんが目白駅前の“小汚い”氷屋で全員に気前よく奢^{おご}ってくださり、“なんて美味しい！”と記憶。更に浪人中、中等科の藤田たちをコーチ。その後、鈴木先生がゴール前で教えられていた記憶。“有名な鈴木勇作先生か！”。樋口主将（前期）日比野主将（後期）で、僕らが2年生の時、全国大会トーナメント4連勝で、5試合目に私城北に1-2敗退。都BEST 4。決勝は私城北と附属。でも悔しい気持ちはない。学習院は強いサッカーのチームではなかったので・・・

浅沼先生には可愛がられた。慶応義塾大受験で浪人中、「俺の処に來い」とご自宅で数学を教えて下さった。「嫌だな？法・文系受験に関係ないのに・・・」と思いつつ通った。ご子息と初等科同級のご縁もあり、授業料は取られずに。「楽しい思い出も今では感謝」です。

<「諸橋達数人は試合で特攻隊みたいな鉢巻していたね」＝岩本談><「今ルール違反」の声>

<「何故？」の声に、「おそらく気合いを入れたくて、当時は流行っていた」＝諸橋談>



間野 信



諸橋 泰

1960/3 卒 （初代浅沼部長時代）樋口周嘉（前期主将）＝2007/3～高等科サッカー部OB会長

日比野勲（後期主将） 多田仁史

多田 先ずは{ヒラが先}に出る。「今日は何の会でしたっけ？設立期のサッカーの会に何故私も呼ばれたのか？」はっきり言って、岩本/神田先輩も鈴木先生も知っているの嬉しくて来た。樋口と日比野からも色々聞かされて・・・「ア～ッそうだっけ！エ～ッ本当に！」・・・やった記憶はちゃんとあるが、{どの様にしたか記憶が薄い}。「呼ばれて良いのかな？」も事実。「学習院大学では自動車部」でした。

メジャーでない時代に、「サッカー部いや蹴球部に何故参加した？」。

「親爺が履いてた古ぼけたスパイク」縁、「樋口/日比野と同期」絆。

一緒に居させてもらって「本当に嬉しいし楽しかった」 多田 仁史



今、樋口/日比野のオジサンがシニアで走りまわり蹴飛ばして「素晴らしく羨ましい」{私は階段上がるのも苦勞している}のに。＜{ウィットに富んだ話}の連続に一同大爆笑＞草創期のメンバーが頑張り、更に盛り上げ、歴史を培って行きましょう。「ヨ・ロ・シ・ク！」

樋口 前期主将の最後の大会初戦が駿台戦。0-2→1-2→1-3→2-3→2-4→3-4→3-5 で負け。

帰り道「涙が止まらなかった」記憶。中等科3年の附属戦帰りには、

田辺の家に呼ばれ、沼津由来の六尺^{ふんどし} 褌を取らずにトイレに入り苦悶。

2007/3/18 創部50周年記念祝賀会のOB総会で会長に就任し、副は、山本と堀。（坂口先輩後の或る一時期は会長空白） 樋口 周嘉



2009/3 卒から定期的に3月のG S Cの日に、『高等科3年生を送る会』企画で記念球を授与。

今年も来る3/16 G S Cの日に挙行予定なので、「皆様も是非グラウンドに足をお運びください」

現在は「年会費なし」で、「全国大会に行く時には寄付を募る構え」の身構えです。

「私も^{よわい} 72歳なので、会長を退いて若い奴に」と、今日もグラウンドで若手に申しつけてきた。

日比野 「皆、中/高等科時代の事を良く覚えてられるな」他の事もしていたので記憶ないが。言われると、「そうかな」と言う気持ち。

今は「週2～3回シニアサッカー」を。70歳台プレーヤーの人口も増え環境も整備されて来た。

私のかかわるクラブでも、全国OVER-70の東西対抗戦もあり、裾野は広がってきた。

皆様、もう一回、華を咲かそう！」

当時は『試験中は部活動禁止の校則』あり。

日比野 勲

3年生成績第1位は樋口で第4位が私。

2年生の第1位が高瀬で、各学年5位以内にサッカー部員が多かった。

浅沼先生から、『試験中もサッカー部のみ練習OK』が許可され、「誇り」でした。



1959/3 卒 （浅沼初代部長時代） 神田元次郎

神田 昔の事を少しずつ少しずつ思い出す。中等科から学習院に入学した。（昭和28～30年度

中等科) 高等科で岩本/松平/内藤(兄)＝柳原/今村/私で、坂口さんが3年生のサッカー同好会に参加。残念ながら同期から三名亡くなられ、私と岩本のみ今でも生きている。

体は体重 49K g と小さくても、中距離走は上位で体力には自信があったので「サッカー」に。

学習院大学ではボート部のコックスに誘われたが、「サッカーを続けた」。

浅沼先生は「頭を使え」「パスはポンポンあげないで足許で捌け」「スピードでパッとやれ」と。

その頃から言われていて、「素晴らしい指導者」でした。

鈴木先生の印象は、「若い格好良いコーチ」「あの様な身のこなしや技を繰り出し・・・」

今では「そのプレーは普通のプレーに成っている」が、「当時は面食らった」「プロ」と感じた。



神田 元次郎



岩本 尚義

【おひらき】幹事：岩本

神田や皆様のお話を聞いていて、「走馬灯の様」に駆け巡ります。サッカーは「奥深い」今更ながら。浅沼先生は、文武両道の厳しい方で、夏の「清明寮」での強化合宿は、練習前に勉強の時間があり、私はその時間がサッカーより辛く、又、成績が悪いと練習にも参加できず、辛うじて免れたのも今は思い出。「ゴールまで行ったらシュートは必ずしも全力でセンター・サークルまで先ず戻れ」を合言葉に頑張った。鈴木先生からは、D・クラマー直伝の近代サッカーをご教授頂きました。

「サッカーをやり続けて良かった!」。蹴友とは今でも年賀状の交換もすると共に、色々お世話を成っています。「後輩にもサッカーをやっていて良かった!」と感じられる様な人生観を持ってほしい。

余談だが、社会人として採用面接をする立場で「サッカー経験者」は、「即採用」した。何故なら、「自分も大切だが、周囲も大切な精神が身についている」から。

最後に成ってしまいましたが、恩師/先輩/後輩を問わず物故 OB 会員の御冥福をお祈りいたしましょう。「お疲れ様」でした。

当日配布の参考資料：2007 年 3 月創部 50 周年記念式典“精鋭”“蹴跡”チラシ

当日回覧の参考資料：1999 年 5 月発行 OB 会名簿第三号 P-3 と P-29 付録対戦績表

以上

<記録注：次頁の【昭和 30 年当時の高等科新校舎移設前の図面】もご覧ください>



堤 精二 先生のプロフィール

今回の Phase-I プロジェクトの編集作業の過程で、第2代部長:小倉先生・第4代部長:鈴木先生から、堤 精二先生(中等科教諭)に関する貴重な情報を頂いた。次のように、NET 検索及びアルバム資料が発掘されたので、ここに抜粋をご披露致します。

つつみ せいじ
堤 精二 1927-2017 国文学者 お茶の水女子大学名誉教授

1927年2月27日に誕生、2017年11月7日に亡くなりました。

暮らした時代は、昭和(63年間)、平成(29年間)です。

次の法要は、2018年11月7日の一周忌です。

出典:死去ネットより

堤 精二

つつみ せいじ、1927年2月27日-2017年11月7日は、

特に井原西鶴が専門。息子に堤玄太がいる。

1927年(昭和2年)2月27日 東京都小石川区(現在の東京都文京区)に生まれる

1945年(昭和20年)3月 都立上野中学校(現在の東京都立上野高等学校)卒業

1948年(昭和23年)3月 松本高等学校(現在の信州大学)文科乙類卒業

1952年(昭和27年)3月 東京大学文学部国語国文科卒業 4月 文学部助手

※1956年(昭和31年)3月卒業の学習院中等科の卒業アルバム「想出」に、
＜運動会＞で【堤先生の力走！】コメント付きの写真を発掘



1956年(昭和31年)4月 お茶の水女子大学文教育学部専任講師

1961年(昭和36年)1月 同大学助教授 1969年(昭和44年)6月 同大学教授

1969年(昭和44年)6月 同大学教授 1992年(平成4年)3月 同大学停年退官

1992年(平成4年)4月 同大学名誉教授 放送大学教授 1997年(平成9年)3月

放送大学定年退職 2006年(平成18年)4月 瑞宝中綬章受賞

北杜夫著『どくとるマンボウ青春期』には、二人の「T」が登場するが、一人は辻邦生、もう一人が堤精二である。松本高校在学中は蹴球ばかりしていて一年留年した。松本高校の体育教師は彼に97点と言う成績をつけたが、これはこの教師が松本高校で教えていた期間中最高の点数だったという。

出典:ウィキペディアより

編集後記

小倉先生のご自宅に訪問の段取りをして下さった、鈴木先生に感謝です。
プロジェクトにご協力いただいた全ての皆様に、”ア リ ガ ト ウ ！”

”蹴跡”Phase- I のテーマ “大河の最初の一滴を求めて” 探求の結果は、
※年表通りに、同好会発足から部に昇格の史実の内に見出すのか・・・
※それ以前の今回の寄稿の記憶の文言化の中に見出すのか・・・
※高等科のみならず中等科/大学の絆の中に見出すのか・・・
高等科サッカー部OB会員及び現役部員の皆様の心の価値観でお決めください。

皆様が大好きな、これまでの高等科サッカー部のために！
皆様がまだ知らない、これから的高等科サッカー部のために！

「昔の出来事を明らかにし、これから先のことを予測する」
どんな時でも、過去に留まらず、絶えずなにかをより良くしていこう！

＜Phase- I プロジェクト 桜蹴シニア背番号 28 より＞

Phase- I プロジェクト

2017/12～2018/9

＜アイウエオ順＞

岩本尚義・緒明春雄

尾関精一・吉川誠

鈴木康友・藤田喬